

中山晃子氏(画家)による「Alive Painting」を公開ゼミナール内で開催します

1 目的

『発信カゼミ』は長野県立大学1年生全員が履修する初年次ゼミナールです。

発信カゼミ8組(担当:グローバルマネジメント学部准教授馬場 智一)では、「哲学カフェをやってみる」をテーマにゼミ活動をしています。

今回、世界で活躍する若手アーティスト中山晃子氏をお迎えし、パフォーマンスの後、観客の皆さんと対話し、翌日のゼミの哲学対話で扱うテーマ(「問い」)を挙げていただきます。

2 日時及び場所

令和元年(2019年)12月17日(火) 18:40~19:50 長野県立大学三輪キャンパス1階C11講義室

3 プログラム

- 18:40~18:45 講師紹介
- 18:45~19:05 キーノートプレゼンテーション
- 19:05~19:30 Alive Painting パフォーマンス
- 19:30~19:50 会場との対話

講師プロフィール: 中山 晃子

画家。色彩と流動の持つエネルギーを用い、様々な素材を反応させることで生きている絵を出現させる。絶えず変容していく「Alive Painting」シリーズや、その排液を濾過させるプロセスを可視化し定着させる「Still Life」シリーズなど、パフォーマティブな要素の強い絵画は常に生成され続ける。様々なメディウムや色彩が渾然となり、生き生きと変化していく作品は、即興的な詩のようでもある。鑑賞者はこの詩的な風景に、自己や生物、自然などを投影させながら導かれ入り込んでいく。ソロでは音を「透明な絵の具」として扱い、絵を描くことによって空間や感情に触れる。近年ではTEDxHaneda、DLECTROCITY ART FESTIVAL(デトロイト)、Solo performance at NEW ARS ELECTRONICA(オーストリア)、Biennale Nemo(パリ)、LAB30 Media Art Festival(アウグスブルグ)、TECHNARTE art + technology(ビルバオ)、MUTEK モントリオール等に出演。

4 参加申し込み

観覧ご希望の方はQRコード(<https://forms.gle/yfUpBVG1WUbuUuLTU7>)から参加フォームにご記入下さい。定員に達し次第、締め切らせて頂きます。会場に駐車場はありません。公共交通機関にてお越し下さい。



5 取材申込

報道機関の方で取材を希望される場合、下記連絡先まで電子メールにより申し込み下さい。